

日本気象学会北海道支部 平成 28 年度気象講座(サイエンスカフェ)
「風の正体とその姿 ～突風災害から身を守る～」の報告

札幌管区気象台気象防災部防災調査課 森 洋一

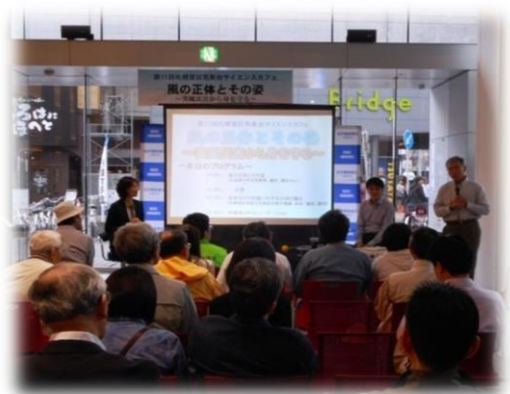
札幌管区気象台が主催し、日本気象学会北海道支部が共催したサイエンスカフェが 2016 年 9 月 18 日(日)に札幌駅近くの紀伊國屋書店インナーガーデンにおいて、「風の正体とその姿 ～突風災害から身を守る～」というテーマで実施されました。

今年の夏は、北海道に 3 つの台風が上陸し、大雨による多くの災害が発生しました。また、これらの台風は 8 月の日最大風速の極値を更新し、道南地方を中心に多くの風による被害をもたらしました。

一方今年、佐呂間町で発生した“竜巻災害”から 10 年という節目であることから、この「風」がテーマとされました。

話し手は、北海道大学名誉教授である藤吉 康志先生と札幌管区気象台予報課堀田 純司さんで、ファシリテーターは気象キャスターとしておなじみの気象予報士の菅井 貴子さんが出演されました。

はじめに、藤吉名誉教授から「風の正体とその姿」のテーマで、「風とはそもそもどういう現象か」という基礎的な話題と最新科学により可視化した様々な風のシミュレーション結果が紹介されたほか、風にまつわる言葉の起源について科学的な根拠を加えて説明され、来場者のみなさんに分かり易い言葉で紹介されていました。



次に、堀田さんから「竜巻など激しい突風に対する日頃の備え」というテーマで、突風とはどのような現象なのか、また気象台はどのように観測・予報し、情報を発表しているのかを紹介し、身を守るための防災行動について話題を提供されました。

講演後は、お二人の身近な言葉による話し方や、菅井さんの的確な水先案内により、来場者の積極的な質問の場となり、アンケートからも「風圧の話はおもしろかった」、「予測が難しく、人間社会へ影響が大きい突風についてよくわかった」とした回答も多く、理解を深め満足度の高い防災講座となったことが伺えます。

なお、本講座には日本予報士会北海道支部も協力しており、今後も連携が深まり、イベントが継続されることを期待しています。